

<2025 年 2 月 13 日 更新>

Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE の機能「AMG ダイナミックセレクト」の、一部モード名称表記を修正いたします。

正：Slippery

誤：Smoothness



Mercedes-AMG SL 初となるプラグインハイブリッドモデル

Press Information

2024 年 12 月 19 日

「Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE」を追加

- ・ F1®テクノロジーを採用した駆動システムを採用
- ・ フロントに4.0リッターV8ツインターボエンジン、リアにバッテリーとモーターを搭載したプラグインハイブリッドモデル
- ・ 最高システム出力は816PS(600kW)^{*1}、最大システムトルクは1,420N・m^{*1}
- ・ 0-100km/h加速は、わずか2.9秒^{*1}

^{*1}: 欧州参考値

メルセデス・ベンツ日本合同会社(社長 兼 CEO:ゲルティンガー 剛、本社:千葉県千葉市)は、メルセデス・ベンツのラグジュアリーロードスター新型メルセデス AMG SL の電動化モデルとなる「Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE」(以下、SL 63 S E)を追加し、全国のメルセデス・ベンツ正規販売店ネットワークを通じて本日より発売します。

「Super」と「Light」(軽量)を略したモデル呼称であるSLは、1952年に公道を走行できるレーシングスポーツカーとして発表され、ルマン24時間レースで見事なワンツーフイニッシュを飾ったほか、世界各地のレースで輝かしい戦績を重ねた「300 SL」(W194)をベースに、1954年に「300 SL」(W198)として発売されました。初代300 SLの誕生から70年以上の歴史を持つSLはメルセデスAMGによる完全自社開発モデルとして生まれ変わりました。SL専用の高剛性プラットフォームによる卓越したドライビングパフォーマンスと快適性を兼ね備えたドライバビリティ、2+2シートレイアウト^{*2}、そしてオープンエアドライビングを楽しむことができるモデルです。また、インテリアはアナログとデジタルを融合した「ハイパーアナログ」デザインを採用することで、300 SLのデザインをオマージュしながらもラグジュアリーで快適な空間を実現しています。

^{*2}: 安全上の理由から後席は対応身長150cm以下、チャイルドシート装着時は対応身長135cm以下となります。

「Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE」の主な特長

エクステリアデザイン

エクステリアデザインは、メルセデス・ベンツのデザイン基本思想である「^{センシュアル}Sensual Purity^{ピュリティ}（官能的純粋）」に、メルセデス AMG のスポーティな要素を取り入れたデザインです。ボンネットのパワードームなど、随所に SL の長い伝統を受け継ぐ特徴的な要素が施されています。デザインの優れたバランスにより、先代に比べて機能とスペースが拡大されました。光と影の交錯によって全体に軽やかなエクステリアとなっており、高い質感と高級感を演出しています。また、SL がスポーツカーとしての原点に回帰したことを裏付ける筋肉質なプロポーションも特長です。

SL 63 S E では新たにサイドエンブレムに「E PERFORMANCE」を、リアエンブレムには赤色の「E PERFORMANCE」を採用しました。ホイールは 21 インチ AMG アルミホイールを標準装備しており、有償オプションの AMG カーボンパッケージを選択いただくと別デザインの 21 インチ AMG アルミホイール（鍛造）が装着されます。

ソフトトップ

ソフトトップは、重量を最適化したスチール／アルミニウム製構造の採用により軽量化が図られており、SL の低重心化に役立っています。また、追加の補強材として、2 本の丸いアルミニウム製クロスビームが一体化されています。外側の幌の色は標準装備でブラック、有償オプションでグレーとレッドの合計 3 色からお選びいただけます。また、リアウインドウについては、ヒーター付の安全ガラスを使用することで、優れた後方視界を確保しています。

インテリアデザイン

インテリアデザインは、初代 300 SL ロードスターに始まる伝統を現代的に蘇らせたもので、メルセデス AMG のドライビングパフォーマンスの遺伝子を受け継ぐことで、スポーティかつ快適性に優れたモデルとなりました。アナログとデジタルを融合させた「ハイパーアナログ」デザインのインテリアは、AMG ハイパフォーマンスカーの DNA を取り入れながら、高品質な素材やクラフトマンシップによって、ラグジュアリーな仕上がりとなっています。

インテリアトリムは MANUFAKTUR ブラッククロームインテリアトリムを標準装備しており、有償オプションの AMG カーボンパッケージを選択いただくと AMG カーボンファイバーインテリアトリムが装着されます。

■AMG 専用スポーツシート

レイヤーや折り目を巧みに組み合わせ、ライトでスリムなデザインを採用した AMG 専用のスポーツシート（ナッパレザー）^{*3}を標準装備しています。また、シートベンチレーター（シートヒーター機能含む）（運転席・助手席）も装備されるとともに、長時間のドライビングでも疲れにくい形状により、心地良いクルージングを実現する高度な快適性も備えています。シートカラーは標準内装で 4 色、有償オプションでは、エレガントなダイヤモンドステッチ入りの MANUFAKTUR ナッパレザーを 2 色からお選びいただけます。

^{*3}: 有償オプションの「ナッパレザー／MICROCUT」選択時は、「シートベンチレーター」が装備されず、「シートヒーター（運転席・助手席）」機能のみが装備されます。

■AMG パフォーマンスシート

有償オプションの AMG パフォーマンスパッケージまたはナツパレザー/MICROCUT をお選びいただくと、ヘッドレスト一体型の極めてレーシーなデザインの AMG パフォーマンスシートが装着されます。大きく張り出したサイドボルスターは運転姿勢を常に正確に保ちスポーツ走行をサポートします。シートカラーはナツパレザーが有償オプションを含む全 6 色、ナツパレザー/MICROCUT は全 2 色からお選びいただけます。

■2+2 シートレイアウト

2+2 シートレイアウトを採用しており、リアシートは日常的に使うための実用性を高めるもので、着座できる乗員の身長は 150cm までとなっています(チャイルドセーフティシート装着時は 135cm まで)。後ろに誰も座らない場合は、リアシート背後にドラフトストップを装着することで、室内に乱気流が侵入することを防ぎます。

■MBUX(メルセデス・ベンツ ユーザー エクスペリエンス)*4

12.3 インチのデジタルコックピットディスプレイと、11.9 インチの縦型メディアディスプレイの 2 画面を標準装備。それぞれ AMG およびハイブリッド専用のコンテンツの表示によって、特別なコックピットを形成しています。対話型インフォテインメントシステム「MBUX」は第 2 世代を搭載。ボイスコントロールは「Hi, Mercedes」をキーワードとして起動します。音声認識機能は多くのインフォテインメント機能(目的地入力、電話通話、音楽選択、メッセージ入力・読み上げ、気象情報)に加え、クライメートコントロール、各種ヒーター、照明など多様な機能にも対応しています。また、音声認識だけではなく、タッチスクリーン、ステアリングホイールにあるタッチコントロールボタンでも様々な操作をすることが可能です。ドライバーの好みや運転状況に応じて使い分けることが可能で、安全なドライブに寄与します。

*4: サービスをご利用いただくには、Mercedes me ID と Mercedes-Benz デジタルプロダクトの利用約款への同意が必要です。また、車両と対応するユーザーアカウントとのペアリング、および情報通信サービスへの申込が必要となります。初回ライセンス期間終了後は、その時点で該当する車両に提供されているサービスに限り、有料で更新することができます。サービスの初期起点は、ペアリングまたはサービスを有効化したタイミングとなります。

■Burmester®サラウンドサウンドシステム

Burmester®サラウンドサウンドシステムを標準装備。11 スピーカー 650W のオーディオシステムが、自然かつ印象的なサウンドを奏でます。Dolby Atmos®*5 に対応しており、これまでにない没入感溢れるサウンド体験を楽しめます。また、有償オプションで立体的な音響再現をお楽しみ頂ける 17 スピーカー 1220W の Burmester®ハイエンド 3D サラウンドサウンドシステムも用意しております。

*5: Dolby Atmos®をご利用頂くためには、MBUX エンターテインメントパッケージプラスに含まれるミュージックストリーミングが有効になっている必要があります。サービスを有効にするために、事前に Mercedes me ID と Mercedes-Benz デジタルプロダクトの利用約款への同意が必要です。また、車両と対応するユーザーアカウントとのペアリング、および情報通信サービスへの申込が必要となります。

パワートレイン

アファルターバッツハにて「One Man, One Engine」の原則に則って生産される 4.0 リッターV 型 8 気筒ツインターボエンジン「M177」をフロントアクスルに搭載し、最高出力 612PS(450kW)、最大トルク 850N・m を発揮します。リア・アクスルには最高出力 150kW、最大トルク 320 N・m を発揮する交流同期電動機と、メルセデス AMG が自社開発した AMG ハイパフォーマンスバッテリーを搭載しています。エンジンとモーターを組み合わせることにより、システム総合の最高出力が 816PS(600kW)^{*6}、最大トルクが⁶ 1,420N・m^{*6} となります。また、0-100km/h 加速はわずか 2.9 秒^{*6} です。

^{*6}: 欧州参考値

■ 交流同期電動機

交流同期電動機はリア・アクスルに搭載されており、電動シフト式 2 速トランスミッションとともにコンパクトなエレクトリックドライブユニット(EDU)にまとめられて、P3 ハイブリッド(変速機内あるいは変速機よりも下流に電気モーターを置く)と呼ばれるレイアウトです。軽量の高性能バッテリーはリア・アクスル上方に搭載されています。

■ AMG ハイパフォーマンスバッテリー

AMG ハイパフォーマンスバッテリー(HPB)の開発は、メルセデス AMG ペトロナス F1[®]チームが使用している F1[®]ハイブリッドレーシングマシンの極めて苛酷な条件下で実証済みの先進テクノロジーを元に進められました。AMG ハイパフォーマンスバッテリーは高出力を頻繁に繰り返し発生できる能力と軽量構造を兼ね備えることで、クルマの総合的なパフォーマンスを高めています。さらに、充電速度が速いことと出力密度が高いことも特長で、アップダウンのあるワインディングを高速走行する場面などでは上りでただちに 100%のパワーを引き出すことができる一方、下りでは強力な回生ブレーキが実現できます。

■ バッテリーセルを直接冷却

この AMG ハイパフォーマンスバッテリーが高性能を実現する土台となっているのが、革新的な直接冷却方式です。最新技術で作られた冷却液を循環させて 560 個のセルすべてを個別に直接冷却し、常に最適な作動温度に保たれます。

AMG ハイパフォーマンスバッテリーはサーキットでハイブリッドモードによる高速走行を行うなど、加速(バッテリーが放電する)と減速(バッテリーが充電される)が頻繁に発生する場合でも優れた性能を維持します。また、均一的な温度制御によってバッテリーの性能や耐用年数、および安全性を向上させています。

■ 回生ブレーキ

回生ブレーキはアクセルから足を放し、ブレーキペダルを踏まない空走状態でスタートします。このときバッテリーが充電されることで大きな制動力が発生し、フットブレーキによるブレーキパッドの摩耗が軽減されます。また、回生ブレーキの強さや交通状況によってはフットブレーキをまったく使わずに制動できる場合もあります。

回生ブレーキの強さは 4 段階に分かれており、右側の AMG ドライブコントロールスイッチで切り替えることができます。これは、「Slippery」モード以外のすべてのドライブモードに適用されるもので、選択されているドライブモードに応じて異なる設定でエネルギー回収が行われます。

AMG スピードシフト MCT 9 速トランスミッション

トルクコンバーターの代わりに湿式多板クラッチを搭載し、ダイレクト感のある素早いシフトチェンジと高い伝達効率を実現しています。トルクコンバーターに見られる損失を低減し、軽量化も相まってレスポンス向上に貢献しています。シフトダウン時の自動ブリッピング機能やレーススタート機能によってダイナミックな走りも楽しめます。

AMG ダイナミックセレクト

AMG ダイナミックセレクトには「Electric」、「Battery Hold」、「Comfort」、「Slippery」、「Sport」、「Sport+」、「Race」、「Individual」の 8 つのモードがあり、それぞれ 精密な設定が施されているため、SL 63 S E の特性を効率重視から ダイナミックなものまで広い範囲にわたって変化させることができます。ドライブモードによって、駆動システムとトランスミッションのレスポンス、ステアリング特性、サスペンション の減衰特性、サウンドなど、主要なパラメーターが変更されます。モードの選択は、メディアディスプレイのスイッチまたは AMG ドライブコントロールスイッチで行います。

通常、SL 63 S E は、電気モーターがオンになると、「Comfort」モードで静かに始動します（「サイレントモード」）。コックピッドディスプレイに、「Ready」アイコンが現れ、車両が走行する準備ができていることを示します。さらに、運転準備が完了したことを知らせるサウンドエフェクトとして、AMG らしいパワフルなサウンドが車内スピーカーから響き渡ります。アクセルペダルを軽く踏むだけで、AMG パフォーマンスハイブリッドは動き始めます。また、エンジンを使わず電気モーターや回生エネルギーを使用して走行する「Electric」モードでは、EV 走行換算距離 15km（等価 EV レンジ）*7 となっています。

*7: WLTC モード

「Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE」その他の特長

AMG の パフォーマンス志向連続トルク可変配分式四輪駆動システム 「AMG 4MATIC+」

AMG の パフォーマンス志向連続トルク可変配分式四輪駆動システム「AMG 4MATIC+」を標準装備しています。このシステムは、異なる駆動方式の利点を兼ね備えています。駆動トルクの前後配分比を無段階で連続的に変化させることで、物理的限界まで最適なトラクションを確保するだけでなく、ドライ、ウェット、スノーといったあらゆる走行条件下で高い操縦安定性と安全性を実現します。また、制御機能を車両全体のシステムアーキテクチャーに統合する洗練されたマトリックスをベースとして、後輪駆動から四輪駆動、またその逆の移行が中断なく行われます。

常時駆動されるリア・アクスルに、可変的にフロントアクスルを接続するのは電子制御機械式クラッチです。走行条件やドライバーの運転操作に応じて、最善のトルク配分を常に計算することで、トラクション重視の四輪駆動と純粋な後輪駆動の間を連続的に変化させながら走行することができます。四輪駆動は優れたトラクションと横方向運動特性を実現するほか、前後方向の運動特性も改善することから、いっそうパワフルな加速が可能となります。

マルチリンクフロントサスペンションとアクティブアンチロール安定化機能

フロントには 5 本のリンクをホイールの内側にすべて収めたマルチリンク式が採用されており、そのため運動学性能が大幅に向上しました。ホイールをコントロールする部分とサスペンション機能を受け持つ部分を相互に独立させることで、高い横加速度を可能としつつ、ステアリングシステムに対する駆動力の影響を最小限に抑えています。リアサスペンションにも、5 リンク式が採用されています。

また、AMG ACTIVE RIDE CONTROL サスペンションが採用され、アダプティブダンパーも 2 つの油圧接続を備えています。一方はダンパーの縮み側に、他方は伸び側にあり、全 4 輪におけるダンパーチャンバーとラインの接続は、アダプティブダンパーのコントロールバルブを介してなされています。

4 本のサスペンションストラットを相互に油圧接続するとともに、ポンプとスイッチングバルブに対して圧力調整を行うことで、きわめて広いロールレートの確保と同時にロール動作の低減が可能となりました。これにより日常走行では、片側に凹凸があっても個別に補正されるため、快適性が向上します。また、ダイナミックなコーナリング時には、油圧装置によりキャンバーの減少が能動的に抑制されることから、結果として高いキャンバー安定性が得られ、きわめて正確なコーナリングが可能になります。

直進時には、ドライブモードや走行状況に応じて、ロールの原因となる個々の障害物に対して補正を行います。そのため、ドライバーも同乗者も極めて快適な走行を楽しむことができます。コーナリング時はロールが低減され、快適性とドライビングダイナミクスとの両面で効果が得られます。また、各ドライブモードの特性も、快適志向とスポーティな走りとの間の開きをいっそう広げることが可能になりました。

リア・アクスルステアリング

アジリティと走行安定性を向上させるリア・アクスルステアリングを標準装備。100km/h 以下での走行時は、後輪が前輪と逆方向に最大 2.5° に操舵されます。これにより、コーナリング時の回頭性を高めて卓越した俊敏さを実現します。100 km/h を超えると、後輪は前輪と同じ向きに舵角が与えられます(最大舵角 0.7 度)。これによりホイールベースを長くすることと同じ効果が生じるため、操縦安定性が高まります。同時に、方向を変える際、後輪に働く横力のはるかに速く高まるようになり、ステアリング操作に対するレスポンスが素早くなります。

ラインアップ

メーカー希望小売価格(消費税込み)は以下の通りです。

モデル	ステアリング	パワートレイン	メーカー希望小売価格* ⁸ ()内は消費税抜き車両本体価格
Mercedes-AMG SL 43 (MP:202501)* ⁹	左/右	2.0L 直列 4 気筒 ターボ	¥17,650,000 (¥16,045,455)
Mercedes-AMG SL 63 4MATIC+ (MP:202402)* ⁹	左	4.0LV 型 8 気筒 ツインターボ	¥29,950,000 (¥27,227,273)
Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE (MP:202501)* ⁹	左	4.0LV 型 8 気筒 ツインターボ +プラグイン ハイブリッド	¥33,500,000 (¥30,454,545)

*8: 上記のメーカー希望小売価格は、付属品価格、税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用を含まない車両本体価格です。また、「自動車リサイクル法」に基づく、リサイクル料金が別途必要となります。メーカー希望小売価格は参考価格です。価格は販売店が独自に定めておりますので、詳しくは各販売店にお問い合わせ下さい。

*9: MP とはメルセデス・ベンツ日本にて使用しているモデル識別コードになります。

なお、Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE には、新車購入から 3 年間、一般保証修理/定期メンテナンス(点検整備の作業工賃・交換部品)/24 時間ツーリングサポート/地図データ更新^{*10} が無償で提供される走行距離無制限の保証プログラム「メルセデス・ケア」が適用されます。

さらに、メルセデス・ケア終了後、有償の保証延長プログラムとして、一般保証および 24 時間ツーリングサポートを 2 年間延長する「保証プラス」をご用意しています。

*10: 地図データの更新にはデジタルプロダクトのマップアップデートをアクティベーションする必要があります。



Mercedes-AMG SL 63 S E PERFORMANCE

※画像は欧州仕様車

メルセデス AMG について

^{エーエムジェー}AMG は、「モータースポーツこそが技術力の優秀性を何よりも端的に示す」という確固たる信念に基づき、1967年に誕生しました。その名は、創立者のハンス・ヴェルナー・アウフレヒト(Aufrecht)、パートナーのエバハルト・メルヒャー(Melcher)、アウフレヒトの出生地グローザスパツハ(Grossaspach)の頭文字から取られています。当初はメルセデス・ベンツの市販車をベースに独自の改良を施したレーシングマシンを製造し、数々のレースにおいて輝かしい成績をおさめてきました。1988年からはメルセデス・ベンツと本格的なパートナーシップを組み、中核となるモータースポーツ活動を通して培ったレーシングカーテクノロジーとメルセデス・ベンツの最先端技術を結集し、メルセデスのトップパフォーマンスモデルの開発とエンジンの生産を行っています。現在、メルセデスAMGの全世界のポートフォリオは50モデル以上で構成されています。また、パワートレインは4気筒、6気筒、8気筒のガソリンエンジンはもちろんのこと、さらにF1[®]の技術を採用した高性能プラグインハイブリッド「E PERFORMANCE」、そして電気自動車と、お客様の幅広いニーズに応えるラインアップを揃えています。

本プレスリリースに記載されている仕様およびメーカー希望小売価格は、発行日現在の内容です。